

鳴門教育大学附属幼稚園  
学校関係者評価報告書

(平成 21 年度)

平成 22 年 3 月

学校関係者評価委員会

## 目 次

学校関係者評価委員会が実施した学校評価について	1
I 学校関係者評価結果	3
II 評価項目ごとの評価	4
1 教育課程・指導	4
2 保健管理	4
3 安全管理	4
4 特別支援教育	5
5 組織運営	5
6 研修（資質向上の取組）	5
7 学校評価	6
8 情報提供	6
9 保護者・地域住民との連携	6
10 子育て支援	6
11 教育環境整備	7
12 教育実習	7
13 センターの役割	7
参考：学校の現況及び目的	9

## 学校関係者評価委員会が実施した学校評価について

### はじめに

本報告書は、学校評議員、大学教員、附属学校部会の組織体として連関する附属小学校の教員、保護者等の学校関係者で構成された鳴門教育大学附属幼稚園学校関係者評価委員会が、附属幼稚園の教育・研究活動の観察及び園長をはじめとする教職員との意見交換等を通じて、同園の自己評価結果について概評することを基本に学校関係者評価を実施し、その結果を取りまとめたものである。

### 1 評価の目的

学校評価は、次の3つを目的として実施するものである。

- ① 学校が、自らの教育活動その他の学校運営について、目指すべき目標を設定し、その達成状況や達成に向けた取組の適切さ等について評価することにより、学校として組織的・継続的な改善を図ること。
- ② 学校が、自己評価及び保護者など学校関係者等による評価の実施とその結果の公表・説明により、適切に説明責任を果たすとともに、保護者、地域住民等から理解と参画を得て、学校・家庭・地域の連携協力による学校づくりを進めること。
- ③ 学校の設置者等が、学校評価の結果に応じて、学校に対する支援や条件整備等の改善措置を講ずることにより、一定水準の教育の質を保証し、その向上を図ること。

### 2 評価のスケジュール

21年7月	第1回学校関係者評価委員会（委員長の選出、評価項目ごとの評価担当者の決定、今後の予定等）
21年9月～	学校関係者評価委員による施設見学、保育・園行事の参観及び教職員との意見交換
22年3月	（ペアレンツセミナー、運動会、園外保育、幼児教育研究会、表現会等）
22年2月	第2回学校関係者評価委員会（自己評価結果及び改善方策等に関する説明を受けての学校関係者評価の実施と評価報告書の作成等）

### 3 学校関係者評価委員会委員（平成22年3月現在）

赤澤ミユキ：附属幼稚園学校評議員

坂田 大輔：附属小学校教諭

○ 田中 弘之：鳴門教育大学大学院教授

田村 隆宏：鳴門教育大学大学院教授

増田万紀子：みどり会会長

（50音順、○は委員長）

## 4 本評価報告書の内容

### (1)「Ⅰ 学校関係者評価結果」

「Ⅰ 学校関係者評価結果」では、「Ⅱ 評価項目ごとの評価」において、評価項目 1 から 13 のすべての評価項目の内容を総合的に判断し、4 段階評価で記述した。

#### (4 段階評価の基準)

- A 十分達成されている
- B 達成されている
- C 取り組まれているが、成果が十分でない
- D 取組が不十分である

また、学校の目的に照らして、「主な優れた点」、「主な改善を要する点」を抽出し、上記結果と併記した。

### (2)「Ⅱ 評価項目ごとの評価」

「Ⅱ 評価項目ごとの評価」では、評価項目 1 から 13 において、当該評価項目が達成されているかどうかの「評価結果」(4 段階評価)及びその「評価結果の根拠・理由」を記述した。加えて、取組が優れていると判断した場合や、改善の必要があると判断した場合には、それらを「優れた点」及び「改善を要する点」として、それぞれの評価項目ごとに併記した。

### (3)「参考」

「参考」では、自己評価書に掲載されている「Ⅰ 学校の現況及び目的」を転載した。

## 5 本評価報告書の公表

本報告書は、鳴門教育大学に提供するとともに、設置者に提出する。また、ウェブページ (<http://www.kinsch.naruto-u.ac.jp>) への掲載を通じて、広く社会に公表(予定)する。

## I 学校関係者評価結果

鳴門教育大学附属幼稚園の学校関係者評価は、内容を総合し、4段階評価中の「A 十分達成されている」と判断する。

主な優れた点について、以下に列挙する。

- 「1 教育課程・指導」において、幼稚園教育要領改訂の構想を具現化した「生活プラン」に基づいて『人間を理解し関係を調整する力』の育成の深化を企図したデータベースの構築とその供覧に関して「研究紀要 第43集」に起程しており、次年度以降のさらなるキーセンテンスの精選及びCMSの更新等への志向は傑出している。
- 「2 保健管理」において、経験豊かな養護教諭を中心に、新型インフルエンザ対策等の即時性、適時性を有する学校保健計画が綿密に改定されており、他園等で隠顕された学級閉鎖等に陥る事態を的確に回避した保健管理行動は秀抜である。
- 「6 研修（資質向上の取り組み）」において、研究幼稚園としての使命を帯びて競争的研究資金としての科学研究費補助金獲得に多くの教員が申請を行うとともに、今年度から新たに導入された申請に伴うインセンティブ経費を巧みに活用し、各教員が県内外の多数の研修行事等に律動的に参画し、幼稚園教育に関する究理の学修に精勤している。
- 「10 子育て支援」において、夏期保育、あいあいサポート、よるトークの開催等の斬新な新機軸を展開しており、保護者との一体感を高揚させている。
- 「13 センターの役割」において、従来からの研究幼稚園・奉仕幼稚園としての触媒作用に加えて、充積された遊誘財データベースについてCMSを導入したweb化の創生によって智略の共有化を図る試みは、幼年発達支援各機構における保育の質の向上に多大なる貢献を果たすと透察される。

主な改善を要する点について、以下に列挙する。

- 「5 組織運営」における今年度の教育支援教員の加配にのみ留まることのない専任教頭制等に移行するための教員定数・配置の見直し等、より適正な組織の責任体制の編成に関する再検討。
- 「6 研修（資質向上の取り組み）」における週休日に行われる研修等への振替日を保証するための教員定数増の要求等、安定した勤務体制の編成に関する再検討。
- 「8 情報提供」における情報管理の強化を目途としたウェブページの現作成者等を園長の管理下に置くための教員定数増の要求等、管理体制の編成に関する再検討。
- 「11 教育環境整備」における安全対策を企図した現園舎の建て替え等に関する概算要求の提示。
- 「12 教育実習」における変形労働時間制による1日10時間勤務をなお超過する現況を是正するための教員定数増の要求等、教職員の過剰負担の軽減に関する再検討。
- 「13 センターの役割」における講師として派遣する教員の勤務時間調整を可能にするための教員定数増の要求等、安定した勤務体制の編成に関する再検討。

## Ⅱ 評価項目ごとの評価

### 評価項目 1 教育課程・指導

【評価結果】 以下の内容を総合し、4段階評価中の「A 十分達成されている」と判断する。

(評価結果の根拠・理由)

#### 観点 1 幼稚園教育要領の内容に沿った幼児の発達に即した指導はできているか

教育課程に基づく具体的なねらいや内容、環境の構成、教師の援助などの指導細目及び方法等を著した資料 1-④「生活プラン」を礎とする質の高い教育活動は、資料 1-①, ②, ③を引用するまでもなく、高評は既に周知のところである。殊に優れた点として、『人間を理解し関係を調整する力』の育成の深化を企図したデータベースの構築とその知の共有化に関して「研究紀要 第 43 集」に起程しており、次年度以降のアップグレードにも大きな期待が寄せられている。

### 評価項目 2 保健管理

【評価結果】 以下の内容を総合し、4段階評価中の「A 十分達成されている」と判断する。

(評価結果の根拠・理由)

#### 観点 2 保健計画が改定されているか

各月毎に罹患しやすい疾病の予防に関する指導計画が策定されているとともに、資料 2-①, ②にも示されているように、世界的規模で猛威を振るった新型インフルエンザに対する周到な対応策が網羅されている。殊に優れた点として、経験豊かな養護教諭を中心に、教職員と保護者とが一体となって園児への新型インフルエンザの感染拡大阻止に努めており、他園等で散見された学級閉鎖、学年閉鎖等に陥る非常事態を見事に回避している。

### 評価項目 3 安全管理

【評価結果】 以下の内容を総合し、4段階評価中の「A 十分達成されている」と判断する。

(評価結果の根拠・理由)

#### 観点 3 危機管理マニュアル等が作成され活用されているか

資料 3-①のように詳細な「安全管理計画 - 危機管理マニュアル -」が改訂されており、日常の安全点検・安全管理の励行とチェックリストによる確認システム、地震・火災の発生、不審者侵入、気象異常等の不測の事態への対応、救急処置と緊急搬送体制等のマニュアルが完璧に整備され、附属小学校との連携も緊密に保持された適宜の合同避難訓練が遂行されている。小児に対応できる AED も適切な場所に配置され、万全な安全管理体制となっている。

#### 評価項目 4 特別支援教育

【評価結果】 以下の内容を総合し、4段階評価中の「A 十分達成されている」と判断する。

(評価結果の根拠・理由)

##### 観点 4 園内委員会の設置、特別支援教育コーディネーターの指名や研修の実施等、特別支援教育のための園内支援体制の整備はされているか

園内委員会を設置し、特別支援教育コーディネーターとして養護教諭が指名されており、大学や附属特別支援学校、スクールカウンセラー、県の総合教育センターなどの関係諸機関との連携を確立している。特別支援コーディネーター研修、東部圏域発達障害児者支援体制整備事業講演会・発達障害早期サポート支援事業等の県内研修のほか、東京において2日間にわたって開催された発達障害講座等にも参加して研修を重ねており、昨年度と比して一層の特別支援教育のための園内支援体制の充実化が推進されている。

#### 評価項目 5 組織運営

【評価結果】 以下の内容を総合し、4段階評価中の「B 達成されている」と判断する。

(評価結果の根拠・理由)

##### 観点 5 園務分掌が適切に機能するなど、明確な運営・責任体制は整備されているか

研究部、教育実習部、教務部の3部に編成した運営体制を根幹とした園務分掌について、新たに1名配置された教育支援教員を含めた改定を行い、さらなる用務の能率化と省力化に努めている。しかし、資料5-②から推察されるように、昨年度と同様に一教職員当たりの負担は必ずしも軽減されていない現状を指摘せざるを得ない。改善を要する点として、園務分掌をより一層適切に機能させるために部内教頭を学級担任から独立させた専任制へと移行するための教員定数増の要求等によって、教職員の労働時間の縮減、業務内容のスリム化、ノー残業デーの完全実施等、適正な運営・責任体制の確立が急務であると思量される。

#### 評価項目 6 研修（資質向上の取組）

【評価結果】 以下の内容を総合し、4段階評価中の「A 十分達成されている」と判断する。

(評価結果の根拠・理由)

##### 観点 6 園内研修や園外研修の実施及び参加ができているか

園内研修では、「保育の質的充実を目指して-遊誘財データベースの構築に向けて-」という研究主題に関する事例研究や保育カンファレンスを園内研究会あるいは園外各校種の教員の参加を得て合同研究会として定期的に実施しているほか、保育技術のスキル向上のためのピアノレッスン、フラワーアレンジメント、歌唱指導法、食育実習などの多岐にわたる領域の研鑽を積んでいる。さらに、殊に優れた点として、外部資金獲得のための研究経費申請に4名もの教員が積極的に応募するとともに、それに伴うインセンティブ経費を活用して園外研修の充実化を図り、資料6-①「出張一覧」に記載されているような多彩な研修により、幼年発達支援のための専門的理解の深化に努めている。

## 評価項目 7 学校評価

【評価結果】 以下の内容を総合し、4段階評価中の「A 十分達成されている」と判断する。

(評価結果の根拠・理由)

### 観点 7 学校関係者評価の実施システムが運用されているか

昨年度に引き続き、幼稚園の現況及び目的や平成 21 年度の重点目標や計画の設定、評価項目の設定、学校関係者評価員委嘱、学校関係者評価委員会開催、重点目標を十分考慮した教育活動の実施、学校関係者評価委員に対する幼稚園教育活動の公開、自己評価書の作成と学校関係者評価委員会での報告ならびに評価の実施等、段階的なシステムを策定し、評価体制の確立に努めている。殊に優れた点として、資料 1-①、②、③及び 7-②に示されているように、評価委員会評価のみに留まらず年間を通じて、各種の来園者に対して積極的なアンケートの実施とその解析をしており、真摯な取り組みを継続している。

## 評価項目 8 情報提供

【評価結果】 以下の内容を総合し、4段階評価中の「A 十分達成されている」と判断する。

(評価結果の根拠・理由)

### 観点 8 情報提供の活用はされているか

ウェブページは、幼稚園らしいフォルムで「園の紹介」「沿革」「研究」「刊行物」「園児募集関連」「マップ」「メール」の各フレームで構成されている。日常の保育場面・行事あるいは幼児教育研究会の研究発表・ビデオフォーラムの場面等について、多角的に写真を媒体として鮮明に伝えるための創意工夫が成されている。また、幼児教育の恒常性及び時代性を反映した今日的課題解決の方略等に関する思索や実践を広く発信し、今年度はデータベース公開のためのコンテンツ管理システムの整備にも着手しており、社会に貢献する奉仕幼稚園の機能を十分に果たしている。

## 評価項目 9 保護者・地域住民との連携

【評価結果】 以下の内容を総合し、4段階評価中の「A 十分達成されている」と判断する。

(評価結果の根拠・理由)

### 観点 9 保護者・参観者等を対象とするアンケートの結果はどうなっているか

年長児保護者対象の幼稚園評価のほか、オープンスクール参加者対象及び参観者・来園者を対象に、合計 4 回、延べ 625 名に対するアンケート調査を実施している。集計結果の概観からは総じて高い肯定的な評価が得られている。殊に優れた点として、各アンケート結果については、精査な結果報告書を作成し、保護者に対しては、園長が「附属幼稚園の現状と課題 -アンケート結果をふまえて-」と題する講話を通して理解と協力を得ており、例年、高評を博している。

## 評価項目 10 子育て支援

【評価結果】 以下の内容を総合し、4段階評価中の「A 十分達成されている」と判断する。

(評価結果の根拠・理由)

### 観点 10 保護者の実情や要望による幼稚園の子育て支援活動が実施できているか



従来から、保護者相互の交流を促進する機会や場の提供、保育参加・保育参観・子育て情報の提供・教育相談の実施・スクールカウンセリング・施設の開放等の子育て支援活動は、みどり会研修活動の一環として積極的に展開されている。今年度は、殊に優れた点として、1) 保護者が中心となって運営する「夏期保育」、2) 通常の教育課程での保育終了後に教職員及び保護者有志によって、サポートを必要とする幼児を16時まで保育する「あいあいサポート」、3) 19時30分から有職の保護者等も自由に集って情報交換等を行うことを可能とする場の提供として、“夜” “寄る” “依る” “拠る” 等からネーミングされた「よるトーク」の開催など新規の企画を重ねて、保護者との連携の緊密化に腐心している。

## 評価項目 11 教育環境整備

【評価結果】 以下の内容を総合し、4段階評価中の「A 十分達成されている」と判断する。

(評価結果の根拠・理由)

### 観点 11 設置者と連携した施設設備の安全・維持管理のための整備はできているか

施設設備の点検に関しては、養護教諭がその実施責任者となっており、今年度は、雨漏り補修工事、コンセント容量増設、中庭テント張り替え、電灯安定器交換、浄化槽ポンプ取り替え等の営繕工事のほか、ブランコ、幼児用暖房便座、地震速報装置、ままごとの部屋・おやつの部屋の扇風機等の新設及びピアノ鍵盤の張り替えと調律など、設置者との連携も円滑で教育・研究環境が常に精美されている。ただ、改善を要する点として、現在の園舎は、既に築40年以上が経過しており、より一層の安全対策のための園舎改修の実現に向けた計画の立案等が次年度の検討課題であると思量される。

## 評価項目 12 教育実習

【評価結果】 以下の内容を総合し、4段階評価中の「A 十分達成されている」と判断する。

(評価結果の根拠・理由)

### 観点 12 専門性や実践力を養う教育実習の実施ができているか

実習幼稚園としての自律的な活動を展開するための方途は、資料 12-①に記載されているように、十分な教育的配慮が付加された上で、そのノウハウが見事に蓄積されている。今年度の実地教育も従来通り、幼稚園における幼児との直接的な係わりの過程を通して、教員となるための実践上の基礎的な能力や態度を養うことを目的として実施し、新型インフルエンザ対応のために実習時間の削減を余儀なくされながらも所期の成果を得ている。他方、改善を要する点として、労使協定により教育実習期間中は、変形労働時間制で1日10時間勤務となっているが、それを超過する労働環境の現状を打破するための教員定数増の要求等、教職員の過剰負担の軽減等がさらなる検討課題であると思量される。

## 評価項目 13 センターの役割

【評価結果】 以下の内容を総合し、4段階評価中の「A 十分達成されている」と判断する。

(評価結果の根拠・理由)

### 観点 13 幼児教育関係者への研修支援及び教員の派遣はできているか

従来から研究幼稚園・奉仕幼稚園としての使命を標榜しており、資料 13-①のように、教員の研修会等へ

の講演講師派遣，県新規採用研修及び10年経験者研修の場の提供と講話講師の担当，幼児教育研究会等での公開保育と研究成果の公表などを主体的に行い，幼児教育の実践と研究に関するセンター的な役割を十分に果たしている。しかし，園長及び学級担任など通常の勤務が多端である教員が講師等を担当し，また，参加者への配慮から休業日に幼児教育研究会を開催せざるを得ないなどの状況にあり，教職員の過剰負担の軽減等が次年度以降の検討課題であると思量される。

## 参考

### I 学校の現況及び目的

#### 1 現況

- (1) 学校名 鳴門教育大学附属幼稚園
- (2) 所在地 徳島市南前川町2丁目11番地の1
- (3) 学級等の構成  
3歳児1学級, 4歳児2学級, 5歳児2学級  
保育課程 2年保育, 3年保育
- (4) 幼児数及び教員数(平成21年5月1日)  
幼児数146人 教員数7人(正規教員)

#### 2 目的

##### (1) 目的・使命

本園の目的は、附属幼稚園園則第1条において「義務教育及びその後の教育の基礎を培うものとして、幼児を保育し、幼児の健やかな成長のために適当な環境を与えて、その心身の発達を助長する」と定めるとともに、同条第2項では「幼児期の教育に関する各般の問題につき、保護者及び地域住民その他関係者からの相談に応じ、必要な情報の提供及び助言を行うなど、家庭及び地域における幼児期の教育の支援に努める」と定めている。

また、園則第1条には「鳴門教育大学における幼児の保育に関する研究に協力し、かつ、本学の計画に従い学生の教育実習等の実施に当たることを目的とする。」と定めており、具体的には教員養成大学の附属幼稚園として、次のような使命をもった幼稚園でもある。

- ①大学と一体となって、教育の理論及び実践に関する科学研究を行う研究幼稚園としての使命
- ②地域の教育課題の解明、参観者への指導・助言、文部科学省・県教委・地教委等からの要請による教員派遣など、教育界の発展に寄与する使命
- ③鳴門教育大学の学部学生及び大学院生の教育実習等を行う使命

##### (2) 教育目標

本園は、園則第1条に示されている幼稚園教育の目的の達成のため、次のような教育目標を掲げている。

- ①自主・自立・創造・感謝の精神の芽生えを養うこと。
- ②健康でたくましい心身を養うこと。
- ③それぞれのよさや違いを認め、育ち合う感性を養うこと。
- ④身近な環境に対する興味や思考力の芽生えを養うこと。
- ⑤喜んで話したり聞いたりする態度や言葉に対する感覚を養うこと。
- ⑥創作的表現に対する興味や豊かな感性を養うこと。

### (3) めざす子ども像

本園は、教育目標に基づき、次のように「めざす子ども像」を明確に示している。

- たくましい子ども
- しなやかな子ども
- 育ちあう子ども

### (4) 平成 21 年度重点目標

鳴門教育大学・附属学校との連携を強化し、中期目標・中期計画・本年度計画等の実現に努めながら、教育目標の具現化を図る。

- ① 幼稚園教育要領の改訂の趣旨を踏まえた幼稚園教育の具現化に取り組む。
- ② 教育の質的向上を図る「遊誘財」研究を推進する。
- ③ 専門性や実践力を養う実地教育の充実に取り組む
- ④ 地域の幼児教育のセンター的役割を果たす。
- ⑤ 園務の能率化や教職員の勤務の適正化を図る。

### (5) 評価項目

- ① 教育課程・指導
  - ・ 幼稚園教育要領の内容に沿った幼児の発達に即した指導の状況
- ② 保健管理
  - ・ 保健計画の改定の状況
- ③ 安全管理
  - ・ 危機管理マニュアル等の作成・活用の状況
- ④ 特別支援教育
  - ・ 園内委員会の設置，特別支援教育コーディネーターの指名や研修の実施等，特別支援教育のための園内支援体制の整備の状況
- ⑤ 組織運営
  - ・ 園務分掌が適切に機能するなど，明確な運営・責任体制の整備の状況
- ⑥ 研修（資質向上の取組）
  - ・ 園内研修や園外研修の実施及び参加の状況
- ⑦ 教育目標・学校評価
  - ・ 学校関係者評価実施及び運用の状況
- ⑧ 情報提供
  - ・ 情報提供の活用の状況
- ⑨ 保護者，地域住民との連携
  - ・ 保護者・参観者等を対象とするアンケートの結果

⑩子育て支援

- ・保護者の実情や要望による幼稚園の子育ての支援活動の実施状況

⑪教育環境整備

- ・設置者と連携した施設設備の安全・維持管理のため整備の状況

⑫教育実習

- ・専門性や実践力を養う教育実習の実施の状況

⑬センター的役割

- ・幼児教育関係者への研修支援，教員派遣等の状況